

コスモローズ新聞

〒644- 和歌山県日高郡



第4回 インタビュー :北野美樹さん 障がい者にエールを

御坊初・障がい者対象パソコン教室

四回目は和歌山県御坊市にある、パソコンスクールTAKUMIの北野美樹さんとの対談を紹介する。七月中旬から二ヶ月間にわたり、障がい者を対象としたパソコン教室が開催された。このパソコン教室は、障がい者雇用の促進等を目的に実施する、令和二年度障害者委託訓練として和歌山県から委託された、御坊市の株式会社パソコンスクールTAKUMI（北野卓志代表）がハローワークのあっせんを受けた障がい者を対象に一日六時間、二ヶ月合計一七六時間にわたり基礎の基礎から指導してくれる。今回は男女計六人の参加となった。

不安からのスタート

知人の勧めで受講することになったのですが、私はなにぶん車いすのため、会場がどんなところなのか、事前の下見は欠かせません。今回の訓練の場所は、「御坊駅のすぐ近くにある興土ビル内。エレベーターを使って教室のある二階へ。一番気がかりだったトイレをチェックすると、障がい者用のものがなく、手すりもなかったため、私は、「授業の内容もそうだが、トイレで苦戦するんじゃないかな」と不安な毎日を送っていました。しかし、なんとか壁やトイレのドア、タンクなど、持てることはすべて駆使して、そして何度も繰り返し使うことにより、体がTAKUMIのトイレ



に慣れていきました。そういった中で、動きもスムーズになり、私の苦勞は杞憂に終わりました。忘れられない「九月一日」そんなこんなで訓練も終盤のある日。この日は事前の予定にはなかった、急ぎよ授業が入った日でした。昼から用事もあったので教室を出る前にトイレを借りておこうと思いい、トイレを済まして手を洗っていると、今回大変お世話になった北野美樹さんが「このトイレに手すりを付けようと思っただけで、その前に当事者である狩谷さんの意見を聞いておこうと思って」と声をかけてくれました。私はそのとき思いつく限りのことを私たちの目線からお伝えしました。「日程も終わりが近いから、狩谷さんがいる間には間に合わないかもしれない。ごめんなさい。」と北野さん。とんでもない。私はその時、涙が出そうなのほどの感動を覚えました。

理解と配慮、ありがとうございます。



訓練が開校するまでの間に、こんなやりとりの中で、できる限りの配慮はしていただいたので、あまり無理は言えないなど。手すりのない点は少々不安だけれど、理解のある、親切・ていねいなインストラクターさんばかりだし、自分も何とかなっているし、と手すりのことは半ば諦めていた私。その最中にこのような話だけでもしていただけたというのは、喜びもひとしお。

私はこの話を伺ったとき、自分がいるあいだに間に合うかどうかよりも、このような気遣い自体がうれしく、『今後、私と同じようなかたちで訓練を受けに来た人たちのために』という観点からお話ししましたし、それは北野さんたちも同じような思いを持っておられるんだなと感じました。

「狩谷さんがいるあいだには間

に合わないかもしれない。」と

言っていた北野さんですが、結論から言うと、きちんと手すり

はつけられてありました。その話から数日後のある日。私はい

つものようにトイレに行こうと

すると、「トイレ、手すりついたら

「まだ一週間も経ってないのに、

期待を持ちつつトイレのドアを

開けると、真新しい手すりが静

かに私を待っていていました。

そしてトイレから戻った後北野

さんに「トイレ、本当に手すり

ついてましたね。ありがとうございます。

成、表計算。インターネットやメールと多岐にわたっていてい

いに指導いただき感謝してい

ます。

北野

みなさん結構パソコンになれて

いる方が多かったこともあり、

大変スムーズに進めさせてもら

うことができました。

狩谷

普段は一般の方を対象にした教

室で、障がい者だけの講義は今

回が初めてということでも、やり

づらかった部分もなかったです

か？

北野

障がい者の方という特別なこと

は全くなく、普段と同じように

ご指導させていただきました。

倒すことがないように手すり

だけでもとの思いで取り付け

ていただきました。お役に立て

たのなら、関わられた甲斐があり

ました。

狩谷

介護に携わっている人ならまだ

しも、普段障がい者に接する機

会が少ない方なのに、私が戸惑っ

ているのを感じて、気づいてい

ただけたことが本言にうれしかっ

た。

北野

障がい者の方といっても状態は

人それぞれ。その人に何をさせ

てもらったらお役に立てるのか

わからないから、二の足を踏む

のですよね。今回が初めてのこ

とだったので、皆さんにとにか

く楽しんで学んでいたけれど

どの一心で毎日、講義を進めさ

せていただきました。今後、同

じような需要と事業の委託があ

れば、この経験を活かして来年

度も開講できると思います。

次回予定記事

今回は、大畑昇一さんの書籍

を紹介いたします。また、季節の移

ろいを写真で感じてもらえれば

とも思っています。まだまだ、

暑い日が続きます。みなさん、

お体にはくれぐれもお気を付け

ください。

わかやま折り鶴プロジェクトに参加

二〇二一年四月八日（木）、日高川町農開センターで折り鶴プロジェクトの集いを開催しました。国民文化祭二〇二二「紀の国わかやま文化祭」の折り鶴プロジェクトに参加し、約八百羽の鶴を使ったきいちゃんのモザイクアートを完成させました。折り鶴プロジェクトは、県のロゴキャラクター「きいちゃん」の下絵が描かれたパネルに折り鶴を貼っていき、絵を完成させます。コスモローズは、和装で単価を詠むきいちゃんを担当しました。完成すると

どこかのイベント会場に展示されます。当日は十名ほどの参加者でしたが、この二週間に鶴を折ってくださった方もたくさんおられます。きいちゃんのお話ししました。よろしくお話しします。早速、県のプロジェクト担当の方に報告させていただき、今後も何か参加できることがあれば教えてください。お話ししました。よろしくお話しします。早速、県のプロジェクト担当の方に報告させていただき、今後も何か参加できることがあれば教えてください。お話ししました。よろしくお話しします。

す。作成当日、日高新聞の方が取材に来てくださいました。最初の文章はその取材記事の中から紹介させていただきました。その時の様子と実際の新聞記事を掲載します。



ものづくり工房

今日のものづくり工房は、苔玉づくりを紹介します。材料は近くの山や河口などで手に入れました。近所の方に頂いた物もあります。

材料

・苔 ・岩松やシダなど ・流木や石 ・紐

作り方

※ 専用の土を丸めて使うのですが、今回は水やりのあと、濁った水が落ちないように使用していません。

① シダなどの根を整えて、苔でくるんでいきます。

その時に、テグスなどでまいていくと整えやすいです。

② 流木やかずらのかごに入れて出来上がり!!!

③ 水をたっぷりとあげて水切りをします。苔が乾いてきたら、またたっぷりとあげてください。

